

入間市の文化遺産をいかす会主催 シンポジウム報告

「文化遺産をいかしたまちづくり」＝入間市市民提案型協働事業＝

日時 平成24年(2012)12月2日(日) 10:30～12:30

場所 入間市産業文化センターB棟(入間市立図書館)2階研修室

参加者 (一般 24名+会員 16名) 計40名

当会は今年度入間市市民提案型協働事業に参画。まちづくり活動のイニシアティブを推進し、観光振興として地域の指定文化財の紹介だけでなく、地元の文化遺産の発見・発掘・学習の場を提供。そして地域の誇りと愛着を高揚し、遠来の人々を迎えるホスト意識の企画を実践。今年の生涯学習フェスティバル参加に際し、シンポジウムを開催し、近隣地区の数団体を招き代表者から活動実践報告と情報交換により、参加型市民活動への啓発を促進した。

総合司会 副会長 石川嘉彦

一 開会の挨拶 会長 岡野亘

昨年3月に会が誕生した経緯から今日までの概要報告、今回のシンポジウムの助言者3名に報告者5名の紹介(詳細は後述)と本シンポジウムへの基調提案をした。

- 助言者 A内田青蔵氏 神奈川大学建築学科教授・専門は近代建築史と近代住宅史。  
大正時代からの洋風建築あめりか屋の研究などを通して昨今の街並み保存や市民のまちづくりへ提言・助言など幅広く活躍され、NHKブラタモリや美の壺等にも出演。軽井沢拠点の住民主導の街並み保存にも協力。
- B荒牧澄多氏 川越市職員で、NPO法人「川越蔵の会」会員。  
歴史ある川越の蔵づくり活性化や観光振興への先駆的アイデアマン。  
全国的ネットワークづくりも推進し市民と共同のまちづくり一人者。
- C田代正樹氏 入間市経済産業部商工課長。市の商工業振興や観光振興の要として存在価値を発揮。市民提案型協働事業への関心も大。

- 報告者 1 (財)日本ナショナルトラスト 会員 浅井潤氏  
2 Webクリエイター 柳沢健司氏  
3 伝統技法研究会代表理事 大平茂男氏  
4 狭山市楽史会顧問 中内丈夫氏  
5 入間市の文化遺産をいかす会幹事 宮越喜彦氏

## 二 助言者からみたシンポジウムの意義 助言者代表 内田青蔵氏

昨年5月「建築家WMヴォーリズと武蔵豊岡教会」講演会で関与したのが始まり。今回のシンポジウムは、単なる建築物の保存のみでなく、気づかなかった身近な文化遺産を多様な観点から発掘し、新たにまちづくりとして何ができるか、参加5団体の実践報告を通して、市民の協働意識を高めるスタート地点となることを願う。

この2時間お互い情報交換をしながら、楽しく過ごしていきたい。

## 三 実践報告 コメンテーター兼司会進行 内田青蔵氏

### 1 (財)日本ナショナルトラストとヴォーリズ建築保存運動について 浅井潤氏

1905年アメリカからきて1941年に日本人となった伝道者で建築家であるWMヴォーリズ氏とその建築理念について言及。彼の設計による建物が1500以上。特に多数ある軽井沢の保存運動を紹介。ヴォーリズ建築文化全国ネットワークへの関与を通して、街並み保存への課題を持つ人たちとの交流と協力を実践。同じヴォーリズ設計の武蔵豊岡教会の保存運動への情報を知り、昨年入間市の文化遺産をいかす会に入会。ヴォーリズ建築文化全国ネットワークとの橋渡し役も行っている。

### 2 Webクリエイター柳沢健司氏のレポートとユニークな提言

最近の人気スポットとして、代官山の蔦屋書店を紹介。その都会的なお洒落な建物と内部が書店とスターバックスカフェのコラボ共存となっていることへ注目。オシャレな場所へ多くの若者が地方からも集まる。その情報源は新聞テレビのマスコミでなくネットでのFACE BOOKなどによる。いわゆるロコミの手段で、昔もあったが、そのツールがネットに変わったのである。

「オシャレであれば、人がくる。」⇔「オシャレでなければ人はこない」このコンセプト+デザインが重要。普通の国民が「イイナ」と思ったもの情報を拡散することが重要である。若い女性が「オシャレ」・「へえ～」と納得するセンスがものをいう時代でもある。入間市のまちづくり提言として「入間・茶の実・オイル→エネルギー」茶の実から油を作って電気をおこすビジネスは！未来への提言となるか、ならないか？英知で電気へ実現可能であればハッピーに、これもオシャレ！

### 3 伝統技法研究会の実践報告 大平茂男氏

伝統技法研究会は、同じ志をもつ人々の協同組合として発足。運営上の基本としては、①データは皆が平等に見えるように共通のものとする。②参加は自由。③報酬は公開。この3本柱がこの会を維持発展させている。古い家が好きな種々の分野の人々が集まり、古い建物から多くのことを学び・守り、建物を公開する。そして分かったことを発表・公開し、ものづくりの創造へとつなげていく。古い建物の保存・復元・解体・移転など、最初文京区の安田邸の保存・公開に着手。現在は(財)日本ナショナルトラストへ寄付。

名古屋の川上貞奴（女優第一号）邸は、大正時代のあめりか屋建築で保存は内田先生も関与。ただし古い建築も快適性を考慮しトイレふろ場・台所・冷暖房など改修は必要。

#### 4 狭山市における楽史会について 中内丈夫氏

シニア・コミュニティー・カレッジで歴史を学んだ卒業生が結成した歴史学習サークル。地域の歴史を掘りおこし研究成果を①立派な②中身のある③読みやすい④専門家でも研究に使用できることを基本に書籍化し、官公署・公民館・学校等に配布し市民に還元。その結果、市の文化財指定となった例として天シン寺の旗本小笠原家墓所などがある。入曽の元水野村と牛久保家の調査で、新田開発の歴史や今も残る地域の屋敷・畑・雑木林が織りなす美しい自然の景観を見直し、新たな視点を検討中。市内8か所の地区センターを拠点にこれから「狭山市の文化財をいかしたまちづくり構想 夢物語」を準備中。

#### 5 入間市の文化遺産をいかす会の活動経過と今後の課題について 宮越喜彦氏

会は昨年3月に発足。県内唯一のヴォーリズ建築である武蔵豊岡教会の価値を発信する講演会の開催をはじめ、黒須地区の文化遺産を訪ねるウォークやジョンソンタウンの歴史と現建築視察ツアーを企画・広報誌こけーら発行などを展開。今年は入間市市民提案型協働事業として、「入間こけーら散歩黒須地区」のマップ作成に10月「こけーら黒須地区散歩」を11月は「ボンネットバスで行く入間市の文化遺産めぐり」を実施。イルマケーブルテレビでも放送され好評をえた。今回はシンポジウムを開催。今までは「まちを知る」活動が主であったが、これからは「まちをいかす」活動への展開も目指したい。そのためにソフトとハードの両面での活動が必要となる。また入間市の中での位置づけとして、地元や他の団体との連携や行政との協働事業の取り組みなど新しいテーマを検討中。また活動への記録をどうしていくか、Webだけでなく、きちんとした誰にも公開できる記録を楽史会が行っているように作成し保存していくことを検討。

#### 四 全体討議とまとめ 司会進行 内田青蔵氏

内田青蔵氏、5団体の実践報告の総括と、それぞれ特徴ある活動へ高い評価と具体的な指示をされた。さらに文化財保存に関し建物をいかしていくには、その価値を壊さず使用し、その空気を味わうそのノウハウを探してほしいと言及された。そして在席の助言者お二人からの意見を求められた。

荒牧澄多氏 市民活動へのネットワークづくりの重要性について語られ、全国街並み保存連盟のネットワークや川越織物市場にマンション建設への市民の反対運動が強いネットワークとなった実例を紹介された。

情報発信は全国ネットにつなぐ・つながれる源。まちづくりのポイントは良いところを見つけ支援・応援する。人と人との出会いが大切。

残念な例、大阪市に400年維持された古民家が持ち主死亡で解体更地へ。

田代正樹氏 市の商工課課長として、文化遺産の発見だけでなく、その活用によるビジネス化を求めたい。人が来るまちにするにはどうするか。

西洋館の活用など、もっと市民に開放できる方策などは？

荒牧氏からプレミアム化の提案。一日限定利用。使用できてこそ価値あり。

建物だけでなく椅子など座ってその良さを体験できるのがよい。

大平氏から 西洋館の古いガラスは価値あるので保存を願う。磨けばきれいに。

価値あるものをみきわめる目をもつ。何にも愛情もって調査する。

内田先生より各報告者への応答（抄）

浅井潤氏 ヴォーリズ全国ネットワークといかす会の連携を進めたい。

柳沢健司氏 情報発信としてWebネットの活用を身近に進めたい。

大平茂男氏 組織活用術の秘訣は、基本の柱が明確でお互いが議論し創造する面白さを体得すること。

中内丈夫氏 調査研究費用に関して、公的団体よりの援助を得ている。

県や市の文化財保護協力金や各地域よりの支援など20万円あり。

宮越喜彦氏 他の団体との連携や市民サポートの拡大を求めている。

専門家やそれぞれの個性をいかした自由なる雰囲気での交わりと活動を主体にしたい。

参加者からの意見として、

田代甲平氏 大工が好きで19歳で宮大工となり入間市高倉在住。80歳。

入間市の高倉寺の観音堂や川越大沢履物店の蔵づくり文化財修復に関わった。

現在は高倉に残る無形のお囃子や昔話に仕事歌の継承に努めているが、記録に残らない口承文化遺産をどう伝えるかが課題である。

田代課長より、田中新市長が観光課の設立を発表。入間市の観光振興への知恵と行動を。

内田先生より

「限られた時間内で十分な討議まではなかったが、まちづくりへ共に考える場として意見情報交換アドバイスなどでき、第一歩の成果があった」とコメントいただき、予定通りに終了した。

五 閉会の辞 副会長 石川嘉彦

有意義なシンポジウムが開催でき、各助言者・報告者・参加者への感謝を述べた。

アンケート協力お願い。

昼食談話会の案内。ジョンソントウンのEAST CONTENTS CAFE。

ゆうゆう散歩で放映された場所

(シンポジウム後に内田先生・荒牧氏・大平氏に参加者有志計12名で、食事をし歓談と意見交換ができた。感謝)

六 アンケート集計 回答者16名（回収率40%）

- 1 どこから 入間市9名 狭山市1名 川越1名 県内他市1名 東京4名
- 2 年齢層 20歳未満 1名 20代1名 30代2名 40代2名 50代2名  
60代4名 70代以上 4名
- 3 会の情報 知人から 14名 会場にきてから1名 その他1名
- 4 今回、印象に残ったものは  
ア報告12（柳沢氏・宮越氏・すべてそれぞれ興味深い・街づくりに繋げる難しさ・その他）  
イ助言者のまとめ7（荒牧氏・内田氏・その他）  
ウ質疑回答（太平氏）  
エその他（川越の街の利用方法）（文化遺産を是非残して街のために活用していた  
だきたいです。）

5 感想

- \* 5名の方のそれぞれの発表ジャンルも異なり幅広く学習できました。  
歴史をつなげていくことは「人とのつながり」がベースになるのですかね。
- \* 有意義な時間でした。今後の活動を楽しみにしています。
- \* 声が聞きずらくマイクの必要性を感じました。
- \* アンケートをとるならペンを用意してほしい。
- \* 助言者と報告者のみのやりとりで一般の方とのQAがなく本来のシンポジウムではないの？
- \* 昨年黒須地区ツアーに参加した際、自分たちの住んでいる・勤めている・通っている地域なのに、その土地のことを知らないのはなんて残念だろう。勿体ないと強く思いました。慣れた地域に興味のない人はいないと思いました。  
入間は歴史のあるところなので、もっともっと地元の人たちに知ってほしいと思いました。  
私はヴォーリズが好きで入間に興味を持ちましたが、地域でこんなに懸命にまちや遺産を守ろうとしている方々がいらして羨ましいです。今だけでなく、このさき20年、100年も皆さまの今の活動がいきるように願っています。  
池袋から乗った特急は秩父へ向かう人たちで満席に近いほどの乗客でしたが、そのうち沢山の人たちが入間に下車するようになる日を楽しみにしています。  
私も外から微力ながらも入間の良さをまわりに伝えていこうと思います。
- \* 若者世代へ伝えていくこと、その伝える方法

\* 回答下さった方々の貴重なご意見をいかして真摯に活動を進展していきます。感謝。2012・12・5 文責（染井・青木）